

特集

夜店とおはやしと

秋祭りの人々

子どもたちの夢の国

街角特集 ワンパク王国がオープン

まちなかの文化財 「小栗原の地名」の碑



西海神竜神社



夏見日枝神社



前原御嶽神社



三山 二宮神社の神楽面



薬円台神明社

PHOTO
ふ
な
ば
し

特集
夜店と
おはやしと
秋祭りの人々



10月18・19日の両日は前原御嶽神社の秋祭り。いつもは静かな参道もこの日は沢山の夜店が出てにぎわいを見せる。



飯山満大宮神社で江戸の後期から代々踊りつがれている神楽舞(10月23日)。この日のために毎晩*特訓。が重ねられたそうだ。1月7日七草の夜にも演じられる。



夜遅くまで、社務所には様々な人が訪れる。



6畳大もある日の丸をあげるための旗ざおを建てる行田諏訪神社の氏子の人たち。



作業を見守る氏子の人たち。



朝早くから祭の準備をする氏子の人たち。(10月18日行田諏訪神社)



*祭りの日は仕事はやらねえだよ。と氏子の人たち。(金杉神明社)



金杉神明社の祭りは10月18日から20日の3日間。



祭りは隣近所のコミュニケーションの場でもある。(御嶽神社)



「お祭りの日はア友だちとオ夜でも遊びに行けるから楽しい」(大宮神社)

「いいかい、よく見てなよ。こうやってあんまり水をすくわねえように、素早く取るんだ。ほら、いくらでも取れるだろう。でもあわてちゃダメだよ。」
おじいさんはそう言うトリズミカルにポンポンとスパーボールをすくいあげて見せるとにっこり笑った。
ここは成田街道(国道296号線)ぞいにある前原の御嶽神社。この10月18・19日の2日間は恒例の秋祭りである。入口の大きな鳥居をくぐる。両側にスラリと行儀よく並んだ提燈の柔かな光が、夕暮れの石畳の参道を薄明るく照らしだしている。その参道をしばらく進むと、大勢の人々のにぎわいとともにも裸電球に照らし出されたいくつもの夜店の列が見えてきた。このおじいさんのスパーボールつりの店はその列の途中にあった。
「取り方を教えてやるのがコツでネ。商売はただもうけりゃいいってもんじゃねえんだネ。お客さんに楽しく、喜んでもらわなくっちゃあ。」
おじいさんはこの商売をはじめてもう50年にもなるという。長野、新潟、山梨...などとあちこちの土地を回っているのだそうだ。船橋はいいとこだね。来る度に新しい物が増える。元気がいいよ。」
子どもたちがすくった色とりどりのスパーボールをおわんからビニール袋に入れていねいに入ると、旅の楽しさ、船橋のことなどをとつとつ話してくれた。
7時半頃を過ぎて一段とあたりの人たちが増えてきたようだ。『夕食後のお祭り見物』といったところだろう。どの人たちの表情もほっと安らんでいる。
船橋の秋祭りは9月から10月にかけて市内の各神社などで様々な行事が行われている。特に10月15日の高根神明社を皮切りに、16日二宮神社、18日飯山満大宮神社、20日船橋大神宮、23日大宮神社と続く一連の秋祭りの神楽は例年沢山の出入でにぎわいを見せている。
また、小室の本覚寺を中心に行われる「小室の獅子舞」、神保町須賀神社の「神保ばやし」、そして船橋大神宮の農具市や相撲大会などが特色ある郷土の秋の祭りとして多くの人々に親しまれている。
船橋は全国から移り住んで来た人たちが大勢住んでいる街。船橋の祭りを見ながら故郷を思う人もきっと多いことだろう。
最近ではこうした歴史ある祭りに加え、町会・自治会、子ども会、また商店街などが新しい街づくり、故郷づくりのために新しい祭りを行うことが盛んになってきました。人々の価値観が単なる物質的なものから精神的な満足を求めるものへと変化してきたことの表れでしょう。
船橋は一年中お祭りの多い活気あふれる街。是非あなたも身近なお祭りに参加して、「古くて新しい街船橋」を味わってみて下さい。



金杉神明社



御嶽神社の参道



毎年10月16日、二宮神社では神楽が行われている。出番を待つ「しんめ」(左)と「きつね」の演者。



西海神の竜神社の祭りは10月3・4日に行われた。市街地の中の神社とは思えない風情があった。



最近子どもたちのための祭りとして行われるようになったという竜神社の祭り。



神楽殿からは餅投げが行われる。



昔、楽連(がくれん)は長男で組織され、おじ婆(次男以下)は入れなかったという。



二宮神社の神楽は、薬円台神明社(10月14日)、滝台八幡社(10月15日)、前原御嶽神社(10月19日)の祭りで、薪まわって舞うことがある。



須賀神社の鳥居。



小室の獅子舞は農家の長男たちによって受けつがれている。(8月22日、9月1日)

祭禮の提燈としめなわ、さかきだけを飾る祭りもある。(八坂神社)



寄付などの受付をする年番の人々。(竜神社)



カラオケ大会に出演した仲間の応援をする地元消防団員の人たち。(竜神社)



10月14日、神保町の須賀神社では氏子たちが集って祭りを祝う。



10月1日～5日は船橋大神宮の農具市。境内には植木、盆栽、工具などいろいろな出店がところせましと並ぶ。



10月9日は子どもみこしの入魂式。かつぎ手の安全も祈願される。(夏見日枝神社)

夏見日枝神社の祭りは10月8日から10日にかけて。しめ縄づくり、みこし、だしなども出る。



毎回数々の催し物でにぎわう習志野台商店街の歩行者天国では「神保ばやし」や「バカ面踊り」が披露され好評をばくした。(10月25日)



毎年子どもたちも祭りを楽しみにしている。(薬円台神明社)



10月14日には恒例の神楽が行われた。(薬円台神明社)



子どもみこしも元気一杯(竜神社)。



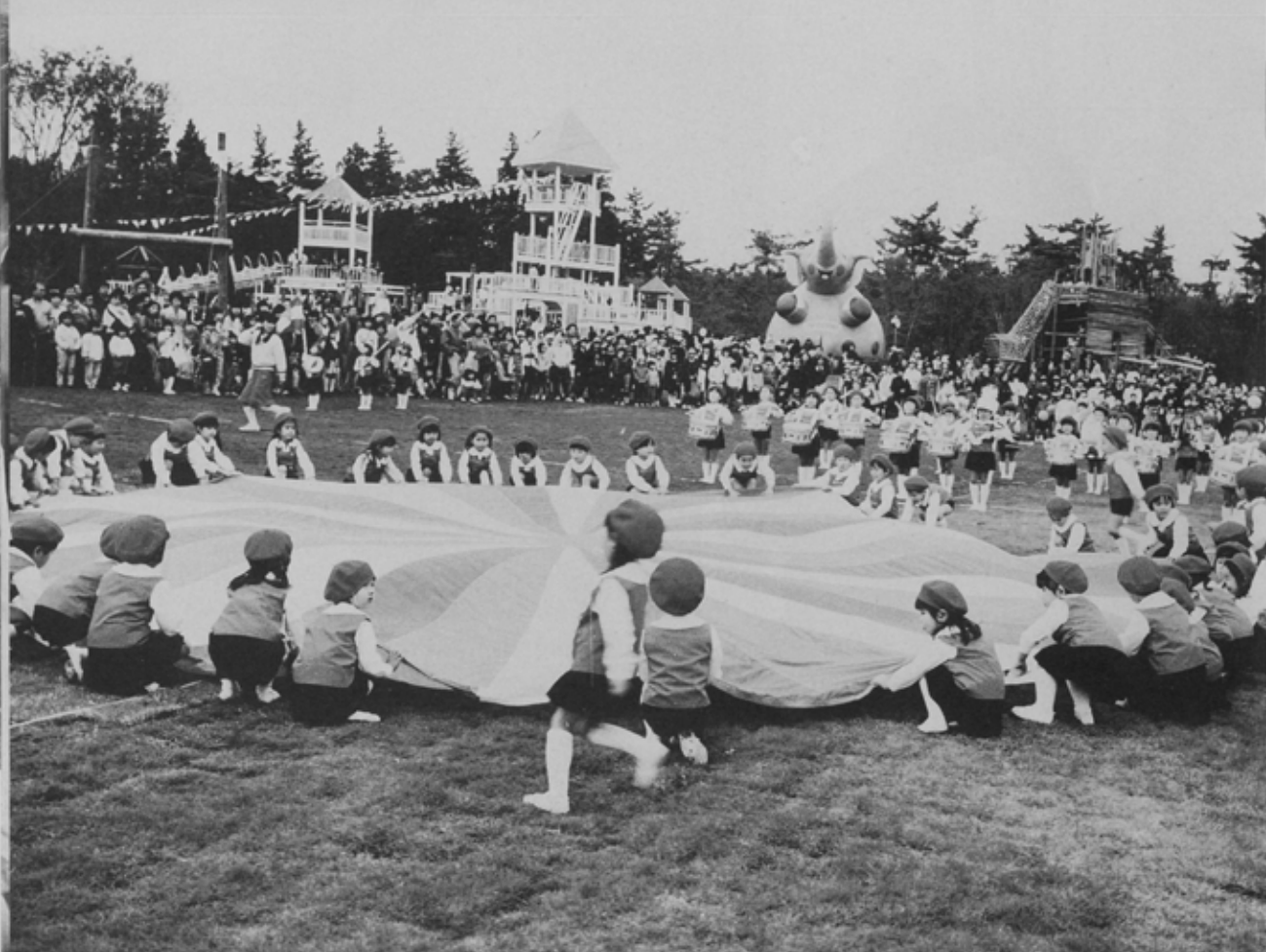
意外と難しい型抜き、に挑戦する女の子たち。



いかに神社らしい大きな木が沢山ある薬円台の神明社。10月14日・15日の2日間には沢山の人が訪れる。

市制50周年記念事業

子どもたちの夢の国 ワンパク王国がオープン



11月15日正午開園されたワンパク王国では数々の催し物が行われ、約11,000人の家族やチビッコたちでにぎわいました。



山本幸男さん(前原西6)デザインのシンボルマーク



スリル満点「ロープスライダー」



子どもたちに人気「森のアスレチック」



遊びながら楽しく学べます。



イナミックにすべり降りる。



ワンパク城からダローラースライダー



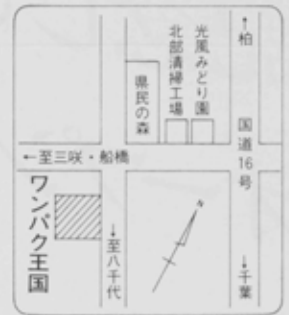
アルキメデスの泉には、足掛水車(写真)、らせん型ポンプ、スクリー、てこ式揚水ポンプがあります。



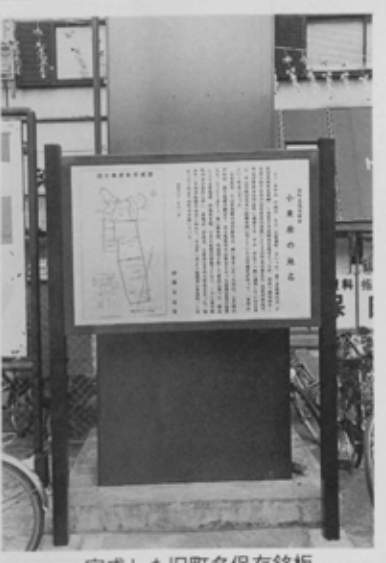
ポニー、ヤギ、ヒツジ、ウサギ、モルモットたちが住んでいます。さわって可愛がってあげてネ。



ポニーが引く花馬車にチビッコたちも大満足。



ワンパク王国はチビッコたちのおもしろ冒険ワールドだ。



完成した旧町名保存銘板

まちなかの文化財

②「小栗原の地名」の碑 (市内本中山2丁目)

十一月十一日、JR下総中山駅前「小栗原の地名」(旧町名保存銘板)が建てられた。除幕式には大橋和夫市長ははじの元関係者多数が集まり盛大だった。まずは「新しい文化財」として、昭和四十二年及び四十九年の住居表示以前は「本中山」も「なかやま」というが、昭和四十二年及び四十九年の住居表示以前は「小栗原」とい、一丁目から六丁目まであった。小栗原村、栗原郷の名称は、江戸時代の初め、家康の側近で、尾張・犬山城主となった成瀬正成の所領になって世に知られた。とにかく正成といえは当代一級の人物で、家康が息子・義直を、徳川第三家、の筆頭に置き、尾張(名古屋藩)を与えたと、その付け家老として、犬山城三万五千石、及び下総栗原三千石を賜えられている。付け家老といふのは、家康の家来たる自分を失わず、同時に尾張藩家老職に就くといふ、幕府と御三家の重要なパイプ役であった。その正成以後、之成、之虎と三代で、栗原郷成瀬家は滅びたが、いま、由緒ある「栗原郷」の名は長く残ることとなった。



JR下総中山駅前広場



パレードする飯山満町のみなさん 小さな勇気が街を明るくします

飯山満町に あいさつ通りができました

人とすれ違うたびに心暖まる街。そんなすてきな街をいち早く実現しようと、飯山満中学校学区内に11月8日あいさつ通りが誕生しました。これは、同学区内の各町会のみなさんの協力により、大人も子どももちょっとした会話「おはよう」「こんにちは」から始めて、非行のない笑顔の似合う街をつくろうというものです。この日、実施記念のパレードに参加したみなさんは、笑顔であいさつを交しながら飯山満中学校に集合し、明るい街づくりを誓い合いました。

街角スナップ



開演式会場へみんなでパレード。



開園のテープカットを行う大橋和夫市長(中央)、林利嗣市議会議員(左)、野村誠一助役(右)、子ども代表の青柳徹君と瀬川貴子さん。

子どもたちの「夢の国」、ワンパク王国が11月15日(日)市の北部豊富町に誕生しました。王国は、大橋和夫市長が昭和59年11月25日の第2回子ども市議会の提案を受け、内容を充実して建設を約束していたものです。緑豊かな自然の中で、子どもたちが自由に伸び伸びと、冒険心、好奇心、学習心を養いながら、遊べるワンパク王国。オープンの日は、あいにくの肌寒い天気でしたが、親子つれの市民一万一千人が詰めかけました。子どもたちはワンパク城に登ったり、芝生でゲームをしたり、ポニーに乗ったり、ヤギやウサギなどの小動物と遊んだり、終日子どもたちのにぎやかな歓声が王国内に響きわたっていました。



11月15日旧のワンパク王国オープンの日、銀色に輝やくタイムカプセルが大勢の市民やチビッコたちが見守る中、森のアスレチック脇に設置されました。このタイムカプセルは、船橋市が市制100周年を迎える、50年後の西暦2037年に開封されます。カプセルの中には、50年後の船橋市長にあてた大橋和夫市長(写真中央)のメッセージと色紙、林利剛市議会議長の色紙、小中学生から募集した絵や作文の入賞作品、そして今の船橋の様子を紹介した資料などが収納されました。



市制50周年を記念して ワンパク王国がオープンしました。



竜神社

編集だより

秋祭りを歩いているいろいろな人々に出会った。サラリーマン風の人。農家のおじさんお婆さん。主婦や子どもたち。そして祭りの主役、お年寄りたち…。ファインダーを通して見た人たちの表情はどの顔も生き生きと輝いて魅力にあふれている。その表情を夢中でおいかけてながらシャッターを押していたら、ふっと故郷の懐かしい風景や人々の顔を思い出した。「地方が長男の世界なら、船橋は2男3男の街です。」と大橋和夫市長が言うように、船橋には全国から集まってきた人たちが大勢住んでいる。そんな人たちが持っている懐かしい故郷のイメージが船橋の祭りにもあった。11月15日の「ワンパク王国」開園日には沢山のチビッコたちが集まった。この子どもたちが大人になった時、はたして今の船橋がどんな思い出となってよみがえるのかも楽しみである。